



対がん協会報

第620号

2015年(平成27年)
2月1日(毎月1日発行)

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13F
☎(03) 5218-4771 <http://www.jcancer.jp/>

主な内容

- 1面、2面 UICC総会報告
3面 がん教育 豊島区の取り組み
4面、5面 2014年リレー・フォー・ライフ・ジャパン開催報告

新理事に野田がん研所長 メルボルンでUICC総会

UICC(国際対がん連合 Union for International Cancer Control)の総会が2014年12月、オーストラリア・メルボルンで開催されました。野田哲生・がん研究会がん研所長が、新理事に選出されました。任期は2年。3期6年、理事を務めた田島和雄・三重大学病院長顧問は勇退されました。

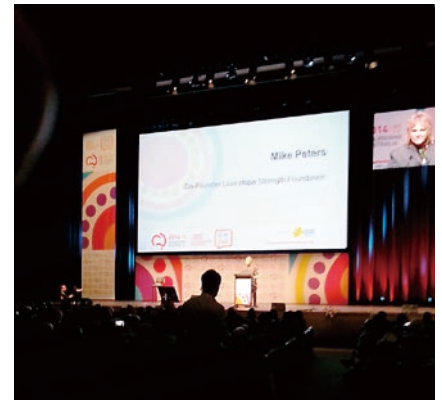
UICCは155カ国・地域の800以上の組織が加盟している民間団体で、WHOなど国際機関への影響力もあります。日本からは、がん研究会をはじめ主要な医学団体、医療機関、日本対がん協会などが加盟するとともに、UICC日本委員会として、国際奨学金の基金拠出、2月の世界対がんデーのシンポジウム開催などしています。

総会会場では3日間にわたり、数十の分科会が開かれました。日本からは、中川原章・佐賀県医療センター好

生館理事長が小児がんについて、赤座英之・東大先端科学技術研究センター特任教授らが、アジアの国々が直面する経済的負担などについて発表しました。たばこ規制や緩和ケア、子宮頸がんワクチン、放射線治療、資金確保など、幅広いテーマについて議論されました。

最近話題になるのは、NCDs(Non-Communicable Diseases、非感染性疾患)という言葉です。心臓血管疾患、がん、慢性肺疾患、糖尿病を指し、全世界の死亡原因の6割を占め、途上国で増加傾向にあるといわれています。喫煙、運動不足、不健康な食事、過度な飲酒などの生活習慣が共通する原因なので、予防に力を入れれば効果が上がると期待されています。

がんは先進国の病気と受け止められやすく、途上国には届きにくく、世界



スピーチが続く総会

的には寄金も集まりにくいという事情が背景にある、という指摘を耳にしました。NCDsは概念が広すぎて、Cancerという課題がぼやけかねないという懸念も聞きました。

UICCは、世界的には活動団体が主流になりつつありますが、日本委員会では研究者主導です。その独自の存在感を活かす活動・提言をしていこうとしています。(日本対がん協会事務局長 伊藤正樹)

(UICC総会報告は2面に続きます)

会場にはGlobal Villageという交流広場がありました。アメリカやニュージーランドなどの対がん協会の展示ブース、マッサージサービス、カフェなど、気軽に立ち寄れる場所です。

開幕初日、オーストラリアを代表する動物たちが姿を見せてくれました。



食べてばかりのコアラ



眠ってばかりのウォンバット

コアラはずうっとユーカリを噛んでばかり、ウォンバットは眠るか抱っこされるか、たまに動いてもゆるゆると。実はヘビも多い国らしく、長さ2mを超えるニシキヘビも登場。

顔見せは1日限りの贈り物でした。

がん相談ホットライン 祝日を除く毎日
03-3562-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3562-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

医師による面接・電話相談(要予約)
予約専用 03-3562-8015

日本対がん協会は、専門医による面接相談および電話相談(ともに無料)を受け付けています。いずれも予約制で、予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までに☎03-3562-8015へ。相談の時間は電話が1人20分、面接は1人30分(診療ではありません)。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

UICC総会報告

リレーも豪州流

最終日の6日、ビクトリア州のリレー・フォー・ライフが始まりました。緑豊かなメルボルンらしく、市中心部の芝生広場です。

午後2時オープンとの案内に従い、時間に駆けつけたものの、紫の旗は目立たず、テントは数張り、20人くらいが仮設舞台上で歌やダンスの練習を笑顔で繰り返していました。本部らしきテントは無人。掲示された日程表を見ると、「午後4時スタート」。2時は準備を始めるめどだったようです。

この時点の印象に限れば、スタッフ



緑豊かなフラッグスタッフ公園

が走り回る日本のリレー会場とは違う、なんだか気楽な雰囲気が漂っていました。日程の都合で、実際のリレーを見届けられなかったのは残念です。

オーストラリアはリレーが盛んです。対がん協会への2013年の寄付額は2400万豪ドル(22億円)と、ホームページにあります。

たばこ規制先進地の意外な実情

オーストラリアは、たばこ規制の先進地と言われています。街を歩くと、会議場などの公共施設やカフェはもちろん、カジノまでもが禁煙という徹底ぶりです。

屋内が禁煙だからでしょう、建物の外での喫煙は意外と目立ちました。路上喫煙禁止のはずなのに、繁華街や川沿いの歩道でも歩きたばこに出くわしました。至る所でたばこの臭いが気になり、少し期待はずれ。たばこ規制は

一筋縄ではいかないなと思いました。

屋内の禁煙・分煙が進んでも、当初は屋外に移動するという現象は、東京でも見られました。銀座の有名な宝くじ売り場前の広場はかつて紫煙もくもくでした。その後、区条例による路上喫煙の規制が進んだ結果、今は気にせず歩けるようになりました。都心の表通りは様変わりです。しかし、ビルの裏はそうでもないし、分煙さえ不十分な飲食店も残っています。

東京都は昨秋、5年後の五輪開催に向けて、受動喫煙防止対策検討会を発足させました。公開された議事録によると、12月の第2回検討会は関係団体からの意見聴取があり、日本たばこ産業がマナー広告や分煙活動について報告し、活発な質疑がなされています。厳しいたばこ規制が求められる五輪開催都市にふさわしい方向性が出るように注視する必要があるようです。

がん教育 三重県津市の小学校で「がんの出前講座」

がん予防のためには、子どものところからの教育とはいふけれど、小学生にどうやって教えたらいいの？

医療、教育関係者共通の悩みです。

1月、三重県津市立の2つの小学校で「がんの出前講座」が実施されました。大三小の5年と6年、神戸小の6年2学級。それぞれ20から30人の規模の授業。神戸小を見学しました。

質問の挙手が相次ぎ、生き生きとした授業でした。

講座は、三重大学病院の小林茂樹・検診センター長が20分、肺がん体験者の大西幸次さんが10分の話。

小林医師の講話は、たとえばが工夫されていました。

細胞の生まれ変わりは、皮膚が日焼け後にむけるのと同じ。がんは遺伝子の複製ミスだが、「コピー時に字がかすれたりすることがあるよね」。キラー遺伝子は修理屋で、生活が不規則で寝不足が続いたり、食事に気をつけなかったりすると「元気がなくなるよ」。

がんで死亡する人は年間36万人。津市の人口29万よりも多いと知らされ、どよめきが起きました。野菜を1

日350g食べようと勧めたときは、同量の大根や白菜などを目前に。

がん体験者の大西さんは、8年前、5歳のときに職場の健診をきっかけに肺がんがわかったものの、手術できず、放射線と抗がん剤点滴の治療を受けたことを紹介。今は県がん相談支援センターのピアサポーターを努めています。以前に自費で名古屋市でのピアサポーター養成講座を受講しただけあって、語り口がやわらかで、仕事や家族、自分の不安な気持ちをわかりやすく話しました。

質問は屈託なく、以下のよう。

Q：いつから気をつけたらいいの。

A：がんになりにくい体を作ろう。好き嫌いをなくし、なんでも食べる。野菜をいっぱい。運動をすると、大腸がん予防になる。

Q：検査費用は高い？

A：2千円から高いのは10万円。国が勧めている検診はお知らせ郵便が市から届く。忘れないように。

Q：骨肉腫はどこにできやすい？

A：ヒザ。

Q：放射線治療は光を当てるだけなの



活発に質問する子どもたち

に、なぜ治るの？

A：遺伝子をやっつける。

Q：体によくはないのに、たばこはなぜ売っているの？

講話後のアンケートを読むと、「わかりやすかった」「生活を見つめ直し、がんの予防をしていきたい」などと前向きな反応が大半でした。

三重県では昨年11月、県立上野高校理科3年で、がんを学ぶ授業が実施され、対がん協会が協力しました。

今回の授業も、県がん対策推進条例が昨年4月に施行され、関係機関と連携しながら、がん教育の準備を進めてきたそうです。

小林医師の講話がわかりやすかったのも、事前に教員を含めて皆で議論をして、改善を重ねて準備したから。

がん教育を広げるのは地域力です。(日本対がん協会事務局 伊藤正樹)

がん教育

豊島区立千川中学校で公開授業

選択制・少人数授業で、がんを考えるきっかけに



「がん」の授業を聞く生徒たち

日本対がん協会は1月17日、豊島区立千川中学校でがん教育の出前授業を行った。

豊島区の小・中学校ではほぼ毎月、地域の方が授業を見学できる「としま土曜公開授業」が開かれている。千川中学校はこのとしま土曜公開授業で年2回、課題別学習教室を行っている。現代の社会問題を課題にした複数の授業を用意し、生徒それぞれが関心のあがる講座を選択する仕組みだ。講師は外部の専門家が務める。

この日は1、2年生を対象に、日本対がん協会による「がん」をはじめ、地盤工学会による「地震」、豊島区役所清掃環境部資源循環課による「ゴミ」など7つの講座が開講された。

豊島区はかねてがん対策に熱心で、

がん教育が受診率向上につながると考え、平成24年から、小学6年生と中学3年生の授業にがん教育を最低1時間取り入れることにしている。ただ、一部の保護者からはがんの話聞きたくない子もいるとの声も聞かれたという。そこで千川中学校は、がん教育をこの課題別学習教室に組み入れ、生徒自身が選べるようにした。

がんの講座には、36名の生徒が出席した。講師は、順天堂大学大学院教授で循環器専門医の佐瀬一洋先生。佐瀬先生は自身も5年前に骨軟部肉腫と診断され、手術と抗がん剤治療を終えている。当時の驚きとショックから話し始め、罹患率の性別、年齢別グラフなどを示しながら、「みんなも、がんが身近だとはあまり感じていないかもしれない。でもたとえば、ご両親はがんになる人が増えてくる年代かもしれないね」と語りかけた。

日本人の2人に1人ががんになること、3人に1人ががんで亡くなることを説明し、「今もがんと闘っている人たちのケアもとても大事なこと」と力を込めた。

今回、生徒たちにできるだけ多く発言する機会を与えようと、佐瀬先生は随所に工夫を凝らした。中でも生徒たちが一番盛り上がったのは、倍々ゲーム。順々に生徒が指され、 $2 \times 2 = 4$ 、 $4 \times 2 = 8$ 、 $8 \times 2 = 16 \dots$ と、前の生徒が答えた数字の2倍の数を答えていく。あっという間に答えは1万、10万と大きな数字になっていく。倍々ゲームをがん細胞の増殖の様子に例えて、早期発見・早期診断が大切だと話すと、生徒たちは真剣に聞き入っていた。

佐瀬先生ががん教育の講師を務めるのは4回目。訪れた学校の先生たちからヒントを得て、こうした子どもとのコミュニケーション方法を考えた。また、どの学校でも中学生たちの感受性の豊かさを実感したという。

最後に「何よりも大切なのは、命や生きているということ。命をつないでくれた家族や周りの人に、思いやりの気持ちを持つこと。今日帰ったら、こんな授業をしたよ、と家族と話さきっかけにしてほしい」とメッセージを送った。

独自の教材を作成、全小・中学校でがん教育を実施

豊島区は、全国に先駆けて独自のがん教育プログラムを実施している。その取り組みについて、同区教育委員会の教育指導課指導主事の松原貴志さんにお話を伺った。

豊島区は平成23年にがん対策推進条例を施行し、がんの予防・早期発見を推進するための施策のひとつとして、「教育委員会と協働し、健康教育の一環として、児童・生徒及び保護者に対して、がんの予防に関する普及啓発を図る」という一文を盛り込みました。



区作成の指導の手引き

この条例に基づき、区教育委員会は翌年から小学校6年生と中学3年生の保健の授業でがんに関する教育を行うよう教育課程に位置づけました。専門的な知識のない教員にとって教材の作成は負

担でしたが、この負担を軽減するため、国立がん研究センターと共同で、教材と指導の手引きを作成しました。

教材は、わかりやすいスライド形式で、教員自身が必要に応じてカスタマイズすることもできます。指導の手引きは、スライド教材を見せながら解説するための台本にあたります。

あわせて教育委員会では、保護者の理解を得るため、がんに関する教育の目的や内容を説明したリーフレットを全家庭に配布しました。また、授業を実施する前に、学年だより等で授業内容を周知するなど、保護者の皆様との連携に力を入れています。今後、各学校における創意工夫ある授業実践を区内全小中学校で共有するなど、さらにがんに関する教育が充実するよう取り組んでいます。



松原貴志さん

2014年リレー・フォー・ライフ・ジャパン 開催報告

がん征圧を胸に43会場で開催。過去最多、8万人が参加。 各地実行委員会からの寄付総額は5,942万円。

RFL統括マネージャー 岡本宏之

自然と命、復興への思い、駅伝も開催

リレー・フォー・ライフのテーマのひとつは「Celebrate」です。「また今年も会えたね。良かったね」。一年ぶりに会場で再会し共に抱き合うサバイバーの瞳は濡れています。2014年は全国43会場で涙あり、笑いありと感動の渦が広がりました。初開催地は5月の和歌山を始め、神戸、東京町田、大阪あさひ、横浜都筑、三浦半島、愛知豊川、滋賀の8か所でした。

穏やかに風いだ琵琶湖畔で開かれた滋賀のテーマは、「自然と命を守ること」。初開催の熱い思いが1300人の参加者を集めました。5年目の千葉は、県内16か所のがん診療連携拠点病院を巡る「スマイル駅伝」を実施し、がん征圧というたすきを見事に繋いだようです。

福岡は6年目。今年は海ノ中道海浜公園での本大会開催に先立ち、天神中央公園でプレイベントを開き、本番と合わせ計419万円のご寄付をお預かりしました。福島は5回目。アグネス・チャンさんも応援に駆け付け、震災、原発事故、そしてがんを乗り越えようという思いで、会場では溢れんばかりのパワーを感じました。

大分会場で感じたリレーの魅力

大分は7年目。心配された台風の影響もなく、サバイバーズラップのスタートです。少し硬い表情だった初参加のサバイバーも、参加者全員による拍



【千葉】スマイル駅伝の自転車隊、ランニング隊がそろってゴール

手のアーチをくぐり元気に歩き始めました。サバイバーと、彼らをあたたかく見守る参加者みんなで交わされるハイタッチ。あちらにもこちらにも泣きそうな笑顔の顔顔——。そうして会場は一体感が高まります。

大分会場でも目立っていた全国リレーの常連チームの一つ、「がんでもいいじゃん」を紹介しましょう。常に笑顔が絶えないメンバーの掲げるフラッグの「がんでもいいじゃんCancer? It's OK. No problem」には、「Fight Back (立ち向かう)」の意味が込められ、多くのサバイバーを勇気づけてくれます。夜は1365個のルミナリエにトラックは照らされ、「がんでもいいじゃん」チームを始め30~35のチームが途切れることなく歩き続けました。

リレーには「Remember」というテーマもあります。亡くなった人を決して忘れないという誓いが込められたこのテーマのもと、エンプティテーブルという追悼セレモニーをほとんどの会場で見ることができました。大分では参加者全員がステージ前に集合し、そして音と光の巧みな演出に釘付けになります。会場の皆が、大切な人に届けとばかりに精一杯の思いをこめて見入っていました。夕方から夜にかけて参加人数が増えるのは、このセレモニーの感動が役買っています。

当初より大分実行委員会の主要メンバーである平野登志雄さんは、自信をもってこう語ります。「大分は毎年成長し、今年の大会は最も充実したと自



【大分】フラッグを手にサバイバーズラップ!

負しています。その根底にあるものは、RFLって何?、ボランティアって何?、募金って何?、そして何のため、誰のためにリレーをしているか常に実行委員内で自問自答しているからです。そうやって想いを一つにしてRFL活動に励むことができます。お陰様で、今年は約453万円もの募金をお預かりできました。経費は必要最小限の71万円だったので、382万円を日本対がん協会に寄付することができました。がん征圧に向け今後も活動を継続してゆきます」。

合言葉はOne World, One Hope!

2014年は、全国8万人もの方々にリレーイベントにご参加いただきました。そのうちサバイバーの参加は4,635人、チーム数は1,494チームでした。「One World, One Hope!また来年も会いましょう。」を合言葉に、この活動は今後更に広がってゆきます。

最後に、年間を通じご支援いただいた各地のボランティア実行委員の方々、常に本部を支えてくださっているボランティアブロックスタッフ、RFL委員、それに協会支部の皆様はこの場を借りて深く御礼申し上げます。このご報告以外にも、多くの企業各位より多額のご寄付をお預かりしており、また号を改めて協会報紙上で御礼とご報告をいたします。



【広島尾道】鳩風船に希望を託し空へリリース

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014年度 収支一覧

【各地の実行委員会からの報告を集計】

	月	日	程	都道府県	地区	参加人数	チーム数	サイバー数	ご寄付総額	実行経費	ACS 寄付	協会寄付	振込額	寄付率
1	5	10	・11	鹿児島	鹿児島	1,500	59	76	2,565,696	1,660,151	76,971	828,574	905,545	35.3%
2	5	17	・18	茨城	つくば	800	23	72	1,790,984	987,947	53,730	749,307	803,037	44.8%
3	5	17	・18	熊本	熊本	758	37	94	2,000,198	999,935	60,006	940,257	1,000,263	50.0%
4	5	24	・25	和歌山	和歌山	1,500	41	200	3,391,087	2,274,523	101,733	1,014,831	1,116,564	32.9%
5	6	7	・8	兵庫	神戸	1,300	45	200	2,907,563	1,903,572	87,227	916,764	1,003,991	34.5%
6	6	7	・8	東京	町田	100	30	20	2,176,621	2,176,392	65,299	-65,070	229	0.01%
7	6	14	・15	青森	八戸	2,200	26	50	2,369,742	1,557,380	71,092	741,270	812,362	34.3%
8	8	2	・3	福島	福島	3,000	43	250	4,653,879	1,856,245	139,616	2,658,018	2,797,634	60.1%
9	8	23	・24	宮城	名取	830	16	35	1,557,336	1,203,819	46,720	306,797	353,517	22.7%
10	8	30	・31	北海道	室蘭	800	19	40	2,345,039	1,040,644	70,351	1,234,044	1,304,395	55.6%
11	9	6	・7	静岡	長泉	450	14	38	1,427,144	481,698	42,814	902,632	945,446	66.2%
12	9	6	・7	兵庫	芦屋	2,000	44	200	4,482,965	3,024,913	134,489	1,323,563	1,458,052	32.5%
13	9	13	・14	栃木	宇都宮	1,400	40	280	6,152,497	3,132,188	184,575	2,835,734	3,020,309	49.1%
14	9	13	・14	埼玉	川越	2,500	48	87	3,825,756	2,050,555	114,773	1,660,428	1,775,201	46.4%
15	9	13	・14	福岡	福岡	1,598	32	92	2,013,242	1,585,324	60,397	367,521	427,918	21.3%
	9	5		福岡	福岡	500	3	30	5,050,000	1,285,587	151,500	3,612,913	3,764,413	74.5%
					福岡計	2,098	35	122	7,063,242	2,870,911	211,897	3,980,434	4,192,331	59.4%
16	9	14	・15	埼玉	さいたま	2,000	58	100	3,186,715	1,968,288	95,601	1,122,826	1,218,427	38.2%
17	9	14	・15	福井	福井	556	16	91	1,471,599	962,429	44,148	465,022	509,170	34.6%
18	9	14	・15	広島	尾道	4,000	65	110	4,896,961	2,100,053	146,909	2,649,999	2,796,908	57.1%
19	9	20	・21	岩手	一関	1,500	48	38	3,754,206	2,246,646	112,626	1,394,934	1,507,560	40.2%
20	9	20	・21	千葉	八千代	1,900	24	150	2,452,446	1,571,585	73,573	807,288	880,861	35.9%
21	9	20	・21	神奈川	横浜・都築	800	20	30	902,980	280,757	27,089	595,134	622,223	68.9%
22	9	20	・21	長野	松本	2,300	26	56	3,007,098	1,882,700	90,213	1,034,185	1,124,398	37.4%
23	9	20	・21	大阪	貝塚	1,500	29	70	1,270,010	560,854	38,100	671,056	709,156	55.8%
24	9	27	・28	東京	上野	12,000	54	109	3,844,424	764,292	115,333	2,964,799	3,080,132	80.1%
25	9	27	・28	神奈川	三浦	400	6	12	301,926	114,330	9,058	178,538	187,596	62.1%
26	9	27	・28	静岡	静岡	1,500	38	113	3,159,927	1,195,842	94,798	1,869,287	1,964,085	62.2%
27	9	27	・28	愛知	岡崎	3,366	40	302	3,095,635	1,073,709	92,869	1,929,057	2,021,926	65.3%
28	9	27	・28	京都	京都	583	33	72	906,797	615,951	27,204	263,642	290,846	32.1%
29	9	27	・28	奈良	大和郡山	800	45	69	2,029,528	844,255	60,886	1,124,387	1,185,273	58.4%
30	9	27	・28	宮崎	日向	1,216	47	49	3,693,592	2,114,102	110,808	1,468,682	1,579,490	42.8%
31	10	4	・5	神奈川	新横浜	1,500	38	90	1,771,616	577,925	53,148	1,140,543	1,193,691	67.4%
32	10	4	・5	長野	長野	2,400	27	100	4,380,100	1,363,216	131,403	2,885,481	3,016,884	68.9%
33	10	4	・5	愛知	豊川	400	19	22	1,498,471	397,571	44,954	1,055,946	1,100,900	73.5%
34	10	4	・5	徳島	徳島	840	11	72	858,808	563,671	25,764	269,373	295,137	34.4%
35	10	11	・12	群馬	前橋	6,100	64	130	5,597,818	3,574,025	167,935	1,855,858	2,023,793	36.2%
36	10	11	・12	岐阜	岐阜	627	23	542	1,358,356	140,731	40,751	1,176,874	1,217,625	89.6%
37	10	11	・12	徳島	小松島	200	6	18	519,178	103,215	15,575	400,388	415,963	80.1%
38	10	11	・12	高知	高知	2,200	47	100	2,770,853	2,097,461	83,126	590,266	673,392	24.3%
39	10	11	・12	大分	大分	5,900	61	185	4,534,836	715,204	136,045	3,683,587	3,819,632	84.2%
40	10	12	・13	大阪	大阪	800	23	37	1,686,726	362,831	50,602	1,273,293	1,323,895	78.5%
41	10	25	・26	滋賀	近江八幡	1,259	22	79	1,763,950	966,594	52,919	744,438	797,356	45.2%
42	11	1	・2	神奈川	みなとみらい	250	42	23	1,193,985	548,955	35,820	609,210	645,030	54.0%
43	11	1	・2	愛媛	松山	2,544	42	102	5,755,796	4,028,523	172,674	1,554,599	1,727,273	30.0%
					2014年度 合計 (43会場)	80,677	1,494	4,635	120,374,086	60,956,588	3,611,223	55,806,275	59,417,498	49.4%

* ACS 寄付=アメリカ対がん協会に対するロイヤリティ

寄付金は、日本対がん協会を通して、がん医療の発展のための「プロジェクト未来」「若手医師育成奨学金」や患者支援「がん相談」、「検診の推進」に役立てられます。一部はRFLの運営資金に充てられます。

Topics

イオンバイクがほほえみ基金へ寄付 自転車を楽しみながら健康な毎日を



自転車レースを楽しむ参加者たち

イオンバイク株式会社は11月3日、自転車と自転車レースの普及・促進を目的とした総合イベント「AEON幕張サイクルフェスタ AEONBIKEエンデューロ2014」で、乳がん検診を啓発するピンクリボンのチャリティを行った。

同社がピンクリボン活動をするのは初めての試み。自転車に乗ることで日々の生活を健康に過ごしてほし

いと、「For health with bicycle」を合言葉に掲げた。

会場は、千葉県立幕張海浜公園(千葉市美浜区)。外周1.7kmのコースが設けられ、エンデューロレースやタイムレースなど計17種目が行われた。

エンデューロとは、制限時間内に何週走れるかを競う耐久レース。仲間と交代しながら走り続けるチームエンデューロと、ひとりで走りきるソロエンデューロが開かれた。速い人は時速30~40kmで走り、上位入賞者の周回数は3時間で70周以上にものぼる。

本格的な体制で勝利を目指すチーム、ソロで自分と闘う人、家族で和気あいあいと楽しむチームなど参加者の様子はさまざま。女性の参加者も年々増えている。

タイムレースは小中学生を対象に、

学年、性別ごとにそれぞれ1~8週の決められた周回数のタイムを競った。レースには計588名が参加。同イベントは「スポーツバイクがはじめての方にも自転車を楽しんでほしい」という趣旨で、この他にもマウンテンバイクトライアルショー、自転車試乗会など、レースの応援に来た人や地元の一般来場者たちも楽しめるメニューが多数開かれた。

大会運営費の一部と、自転車メンテナンスコーナーでメンテナンス料として集められた募金が、日本対がん協会ほほえみ基金へ寄付された。自転車を楽しむ女性本人はもちろんのこと、家族のためにも健康を大切にしてほしいとの思いが込められている。

表彰式では、日本対がん協会の平田治事務局長が寄付のお礼と乳がん検診の大切さを伝えた。同社は今後、社員向けの乳がん勉強会なども検討していく。

ピンクリボン活動を展開して10年目 東京スカイツリーでピンクリボンチャリティ目録贈呈式 ジュピターゴルフネットワーク

CS放送ゴルフ専門チャンネル『ゴルフネットワーク』(東京都江東区)は、12月9日に東京スカイツリー内のJ:COMワンダースタジオで公開収録イベント「ゴルフネットワーク ピンクリボン2014トーク&贈呈式」を開催し、同社の本年度のピンクリボン活動で得た収益金、1,120,971円を日本対がん協会に寄付した。

『ゴルフネットワーク』はゴルフを通じたCSR活動の一環として、2005年から女子ゴルファーらを中心とするピンクリボン活動を行っている。集めた寄付総額は10年間で約1300万円にのぼる。今年も都内のゴルフ練習場や千葉県のゴルフ場でチャリティー試打会やレディスダブルスコムペを開催。大勢の参加者や協賛各社から寄付金が寄

せられた。贈呈式の前半はプロゴルファーの上原彩子さんのチャリティートークライブ。上原さんのファンを始め20名あまりの参加者が、ゴルフ談議や乳がんの早期発見、診断・治療の大切さを伝えるトークを楽しんだ。

上原さんは、自身もプロデビュー1年目からピンクリボンのチャリティー活動に取り組んでおり、パーティー1個につき1000円を寄付する「パーティーチャリティー」を続けている。「ピンクリボン活動をもっと広めていきたい。そのた



上原彩子プロから目録を受け取る黒岩アシスタントマネージャー

めにはゴルフの成績もしっかり出していかなくては」と話した。

トークショーの最後に、上原さんから日本対がん協会の黒岩由香利アシスタントマネージャーに寄付の目録贈呈が行われた。贈呈式の様子は12月27日に放映された。

Topics

学生対象 デザインの力でがんを減らそう！

第3回がん征圧ポスターデザインコンテスト募集中

学生のみならず、日本対がん協会では「がん征圧ポスター」のデザインを募っています。作品テーマは「がん検診に行こう」です。若い世代の新鮮な感覚で、がんの早期発見、早期治療を呼びかけ、がんに苦しむ人を一人でも減らしてください。

対がん協会は昭和35年(1960年)よ

り、9月をがん征圧月間に定めて様々な啓発活動を行ってきました。がん征圧ポスターの制作もその一環で、全国の自治体や保健所、医療・検診機関などに掲示しています。

一昨年から若い世代にもがん検診に興味を持ってもらい、新鮮なデザイン力でがん征圧を呼びかけてもらおう

と、学生対象のコンテストを開催し、最優秀作品をポスター化してきました。

がん征圧のために、ぜひふるってご応募ください。お問い合わせは日本対がん協会広報担当臼井または本橋(Tel03-5218-4771)まで。

- エントリー及び作品募集期間 2015年2月2日～3月31日(消印有効)
- 作品テーマ 「がん検診に行こう」
- 応募資格 大学生・大学院生・短大生・専門学校生
グループ応募も可(ただしメンバー全員が応募資格を有していること)

●審査員

秋山歌太郎(公益財団法人日本対がん協会理事長)
岸田徹(若年性がん患者団体STAND UP!!運営委員・がん経験者)
中川恵一(東京大学医学部附属病院放射線科准教授)
長坂伸司(厚生労働省健康局がん対策・健康増進課課長補佐)
廣村正彰(グラフィックデザイナー)
本田亮(クリエイティブディレクター)
松田一夫(公益財団法人福井県健康管理協会副理事長・県民健康センター所長)
本橋美枝(公益財団法人日本対がん協会 広報グループマネージャー)

●贈賞

最優秀賞1点：ポスター化し、9月のがん征圧月間に合わせて全国の自治体、保健所、病院などに掲示します。
副賞 賞金10万円

優秀賞3点

●主催 公益財団法人日本対がん協会

- 応募方法 コンテスト公式サイトでエントリーした上で応募してください(詳細は同サイトでご確認下さい)。
公式サイト <http://www.jcsposter.com>



2014年度がん征圧ポスター

グ ル ー プ
支 部 対 象

2015年度がん征圧スローガン

募集締め切り間近です。

日本対がん協会グループ支部を対象にしたがん征圧スローガンを今年も募集しています。

最新の推計値では、新たにがんにかかった人が年に80万人を超えました。もう少し早く見つかったらと悔しい思いをする人も少なくありません。

そんな人を一人でも減らすため、国際的にも低い水準の日本のがん検診の受診率を少しでも上げたいという願いを込めて、今年もがん征圧スローガンをぜひお寄せ下さい。

見た人に「そうだ、がん検診を受けに行かなくちゃ」と思わせるような作

品を期待しています。

最優秀作品は2015年度のがん征圧スローガンに採用し、様々な啓発活動に活用します。受賞された方は9月のがん征圧全国大会(前橋市)で表彰します。

応募 各支部5作品まで スローガンと作者名、所属、連絡先をご記入下さい(書式自由)。

宛先 日本対がん協会広報(担当臼井) FAX 03-5222-6700 応募締切 2015年2月10日(火)

2014年度がん征圧スローガン 「面倒? 怖い? 忙しい? 言い訳しないで検診へ」(青森県支部 熊谷里子さん作)

奨学医レポート

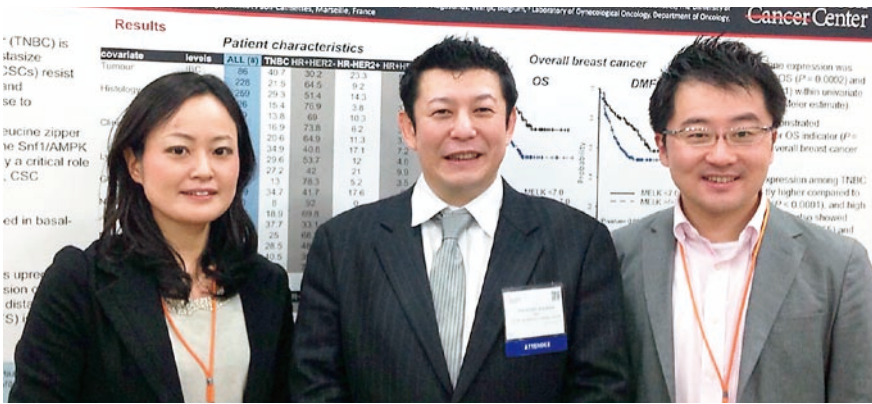
MD Andersonがんセンターでの研修を開始して

広島市立広島市民病院 腫瘍内科

広島大学原爆放射線医科学研究所

大学院医歯薬保健学研究所

河野美保



サンアントニオ乳癌学会にて 右から原野謙一医師、古川隆広医師と河野美保医師

日本対がん協会RFL マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞を頂き、2014年10月25日よりMD Andersonがんセンターでの研修が始まり、2か月が経ちました。

受賞が決まった時の喜びも大きかったのですが、実際に研修が始まってからその喜びはさらに大きく、Postdoctoral fellowという最善の立場で臨床研究を始めることができたからこそ、整った環境において頂けることに感謝致しております。

出発するまでの書類などの準備、到着してからの生活のセットアップには多くの方に支えて頂きました。2か月経って、少しずつアメリカの生活にも慣れて参りました。土地の広大さ、大雑把で大らかなところ、大変気さくなところなど、日本ではあまり経験することのなかった新鮮な驚きの連続です。Halloweenやthanksgiving、Christmasなどの行事やその都度変わりゆく街の雰囲気も堪能することができました。

その中でもMD Andersonがんセンターの規模の大きさ、充実した医療環境は、日本で考えていた以上に素晴らしく、今更ながらここで学べる幸運を大切にしなければと思っております。

臨床研究に関しては、上野直人先生に毎週個人ミーティングの時間を頂き、癌治療への情熱、たくさんのアイデアを以てご指導頂いており、非常に

有難く、身の引き締まる思いであります。今まで日本では、目の前にある治療の中から患者さんに良いものを選択して治療にあたっておりましたが、再発の方の治療などその限界に悩むことが多々ありました。こちらでは、今までの経験を生かし、新たな治療法が確立されることで、患者さんにとってより治療効果が期待できる機会が増えることを望んで臨床研究に取り組んでいます。

MD Andersonがんセンターでは、基礎研究と臨床研究の間の連携が密であり、基礎研究がそのまま臨床研究に生かされ、それがまた基礎研究にフィードバックされており、ディスカッションも盛んに行われています。実際に体験できることで、基礎研究への関心も高まり、臨床研究の質を上げていくのに大切な経験となっています。

また、研究における一つ一つのステップが厳格であり、品質の高い臨床試験を行うための基本・重要性を学ぶ非常に貴重な機会となっています。今後臨床試験に携わっていくうえでなくてはならないことではありますが、どこでも経験できることではありません。世界屈指のがんセンターにてこのような貴重な経験をさせて頂いていることが大変有難く、できる限り吸収し、貢献できるようにしたいと意気込んでおります。

上野先生の外来見学もさせて頂いて

おり、患者さんへのインフォームドコンセント、治療方針を中心に勉強しております。コメディカルの方々との連携の強さを目の当たりし、帰国してから生かしていきたいと考える目標の一つとなっています。日本でも徐々にチーム医療の大切さが取り上げられておりますが、確立と浸透にはまだ改善が必要であり、よりよい充実した高度で安全な医療を提供するうえで、非常に大切な課題であると痛感します。

今までの診療で疑問に思っていたことや改善できることなどを違った角度から学び、今後腫瘍内科医として求められていること、すべきこと、そして、自分に何が貢献できるかを見極め、自分なりに答えを見つけて帰国したいと思います。

最後にこのような貴重な機会を頂きました対がん協会の皆様に深く御礼申し上げます。臨床研究とともに、アメリカでの文化・風習なども楽しみ、他国の研究者の方々との交流を深め、与えられた機会を大切に過ごしていきたいと存じます。また留学先での近況を報告させて頂きたいと思っております。ありがとうございました。



上野直人先生と外来にて